

山口・二刀遺跡

- 1 所在地 山口県下関市(旧豊浦郡)豊北町大字阿川字二刀
- 2 調査期間 二〇〇二年(平14)一月～二月
- 3 発掘機関 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
- 4 調査担当者 有福史博
- 5 遺跡の種類 遺物包蔵地
- 6 遺跡の年代 弥生時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(小 串)

二刀遺跡は、沖田川左岸の洪積台地裾の低湿地に位置する、弥生時代前期から近世にかけての複合遺跡である。今回の調査は、国営農地再編整備事業に伴う発掘調査である。

調査区の堆積層はⅠ～Ⅵ層に大別され、Ⅲ～Ⅴ層が遺物包蔵層である。とりわけ、七世紀から九世紀にかけての須恵器の出土が目立つ。

木簡は、Ⅴ層から一点出土。

土した。各層とも弥生時代から中世にかけての遺物が混在し、歴史的なまとまりがないため、木簡の正確な帰属時期は不明であるが、出土した遺物の様相から推察すれば、八世紀から九世紀に収まる可能性が高い。他に、「突」「仲」と書かれた墨書土器や「仰」と書かれた刻書土器、緑釉陶器などが出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1)

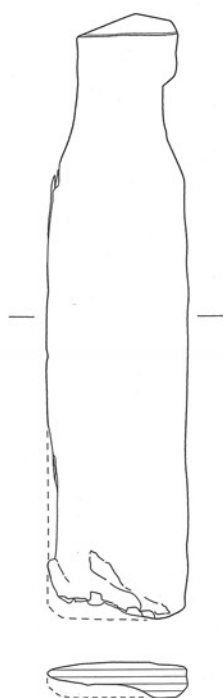
〔V□□〕

200×45×10 032

板目材で、ほぼ完存する。頭部は山形状に切断。上端の表裏に刃入れ痕がみられる。下端は切断部が僅かに残る。裏面は板目に沿って剥ぎ取られた可能性がある。出土当初は墨痕が看取できたが、判読不能とされた。現状では墨痕は確認できない。

9 関係文献

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム『二刀遺跡 丸山遺跡 神田口遺跡』(二〇〇三年)



(小林善也)